

(様式1)

教科用図書調査に関する報告書

教科	特別の教科 道徳
----	----------

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
東書	2	道徳 101 201 301 401 501 601	新訂 あたらしいどうとく1 新訂 新しいどうとく2 3 4 新訂 新しい道徳 5 6	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさはAB判で見やすい。 ・ページ数、重さの平均は、それぞれ166ページ、333gと少なくて軽い方である。 ・学習指導要領に示されている道徳科の目標達成に結びつく内容になっている。 ・「考えるステップ」には、道徳の授業のステップや、授業で重要な話し合いの留意点などが、まとめて記載してある。 ・学期ごとに記入する「学習のまとめ」のページがあり、評価にもふり返りのページを生かすことができる。 ・コラム「つながる・広がる」では、各教科等との関連を明示し、その後の学習や実生活にも生かしていけるように工夫されている。 ・いじめ問題に関しては、直接的に扱っている教材は、各学年とも少ない。 ・ほとんどの出版社が扱っている、低学年の「およげないりすさん」や高学年の「ブランコ乗りとピエロ」「うばわれた自由」といった定番教材を扱っていない。しかし、それに代わる教材もそんな色ないものが用意されている。 ・多数の写真や資料が掲載されている。また、色彩豊かで、すべての子どもが見分けやすいような色使いである。 ・フォントは、新開発のユニバーサルデザイン教科書体で、少し太めになっており大変見やすい。また、行間も広い。言葉のまとまりを捉えやすいように、改行位置を工夫したり、分かち書きを取り入れたりして読みやすくなっている。 ・紙質は、書きやすく消しやすいようになっており、さらに巻末は紙質を変えている。

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
学 図	1 1	道徳 102 103 202 203 302 303 402 403 502 503 602 603	かがやけみらい しょうがっこうどうとく 1ねん きづき・ま なび 小学校どうとく 2年・3年 きづき・まなび 小学校道徳 4年・5年・6年 きづき・まなび	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさが横広の AB 判で扱いやすい。 ・読み物資料の「きづき」と別冊ノートの「まなび」の二部構成で、二冊で一つの教科書としている。 ・別冊も含めて1～6年の平均ページ数は186ページ、重さは405gと標準的。 ・資料編には内容項目や発問が一切ないのが特徴。その分、授業展開には教師の工夫が必要。 ・すべての資料に QR コードがついており、タブレット等で読み取ると、挿絵資料コンテンツが利用できるようになっている。 ・別冊に内容項目、考える視点、自分の考え、友達の考えを書く欄が設けてあり、多面的・多角的に考える手立てが工夫されているとともに、言語活動の定着を図ることに配慮されている。 ・自分の考えを書く欄が設けてあるが、大きくくりな評価をするという観点からは扱いにくい。 ・考えを書く欄は、1年生も6年生も同じスペース同じマス目で、低学年にとっては扱いにくい。 ・別冊のコラムには、図書紹介や偉人の名言等が掲載されている。 ・いじめ教材については、学年によってばらつきがあり、充実しているとは言い難い。 ・情報モラルについては、高学年で SNS トラブルについて扱っており、発達段階に応じた内容となっている。 ・長年扱われてきた定番教材を多く扱い、教師にとって指導しやすい教材である。 ・表記について、高学年では、他社と比べて文字が一番大きいうえに、行数も多いため、かなり詰まった印象がある。

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
教出	17	道徳 104 204 304 404 504 604	しょうがくどうとく1 はばたこうあすへ 小学どうとく2・3 はばたこう明日へ 小学道徳4・5・6 はばたこう明日へ	<ul style="list-style-type: none"> ・ AB判で扱いやすい大きさ。 ・ ページ数平均153ページ、重さ平均318g。8社の中で最もページ数が少なく、最軽量。 ・ キャラクターの言葉で導入の問いかけ、教材の終わりには「考えよう 深めよう」として、学びの手引きがある。一方で、キャラクターが道徳的価値を示している部分があるため、主体的な学びができてにくい。 ・ 巻末に1年間の学びの記録が残せるようになっているが、分量が少なく大きくくりな評価に生かしのにくい。 ・ 児童の身近な生活の中で、道徳的価値について考えさせる問題が取り上げられており、問題解決的な学習に結び付けやすい。 ・ 教材名の前にリードがあり、主題がとらえやすくなっている。 ・ 生活科や総合的な学習の時間などに関連付けがされている。巻末の学習内容一覧では、他の教科・領域との関係が示されている。 ・ いじめについて発達段階に応じた内容が取り上げられている。1年から4年までは、身近な出来事を題材とした教材となっており、5・6年では、集団や社会との関わりを考える教材を扱っている。 ・ 4年生以上で、先人・偉人を取り扱った教材が多い。 ・ 地域の行事や、伝統文化についての教材数が多い。 ・ 1時間で扱いやすいように教材の分量が工夫されている。展開部分で十分に考えられるように構成されている。 ・ 同一教材が取り扱われていない項目では、代替教材があり問題ない。 ・ タイトル、挿絵に問題はないが、写真が少なく小さめになっている。 ・ 文字の大きさ等は適切である。 ・ 書きやすいが消し跡が残る。

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
光村	38	道徳 105 205 305 405 505 605	どうとく1・2・3 きみが いちばん ひ かるとき 道徳4・5・6 きみが いちばん ひ かるとき	<ul style="list-style-type: none"> ・B5判と小さめで低学年にも扱いやすいサイズ。 ・ページ数は平均189ページで、少ない方。 ・重さは平均336gでやや軽め。 ・教材の最後の「考えよう・話し合おう」「つなげよう」での問いかけでは、自分の思いを表現し、互いの考えを伝え合い発展させるような活動が設定されているため、言語活動の定着を意識して学習に取り組めるよう配慮されている。 ・問題解決的な学習をするために、導入で道徳的価値を提示し、興味関心を呼び起こすように配慮されている。 ・評価への活用は、学期ごとに「学びの記録」があるが、欄が小さく書き残すには少ない。 ・他教科や領域との関わりが巻末に掲載されているため、相互に関連を持ちやすい。 ・学校や、身近なシチュエーションでのいじめ問題を多く取り扱っているため、日常的な道徳的実践にも結び付けやすい。 ・伝統文化に関する内容が他社と比べ少ない。 ・挿絵や写真が弱いものや、淡いもの、表情の乏しいものが散見される。 ・高学年では文字が小さく、1ページ16行と、行間が広すぎる印象。 ・フォントは視認性の高いユニバーサルデザインフォント。 ・環境に配慮した紙を使用。 ・紙質は書きやすいが消しあとが残る。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
日 文	1 1 6	道徳 106 107 206 207 306 306 406 407 506 507 606 607	しょうがくどうとく いきるちから 1・1 どうとくノート 小学どうとく生きる力 2・2 どうとくノート 3・3 どうとくノート 小学道徳 生きる力 4・4 道徳ノート 5・5 道徳ノート 6・6 道徳ノート	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさが横広の AB 判で扱いやすい。 ・別冊と合わせて、ページ数は6 学年平均 220 ページで最も多く、重さは475 g で最も重い。 ・役割演技や問題解決のための話し合いを通して、児童が主体的に学習に取り組み、対話を通して深く学んでいく工夫がなされている。 ・別冊に各教材について考えたことや学習の振り返りを書くようになっている。 ・問題解決的な学習に適した教材が設定されており、学習の手立てが、具体的に掲載されている。 ・教材文の後に設定されている問いが、登場人物への自我関与しにくいものになっており、心情を考えることを通して道徳的価値について多面的、多角的に考えることがしにくい。 ・別冊は1時間の授業についてのみ記録するようになっており、大きくりな評価には直接活用しにくい。 ・他教科との関連が本冊の巻末に一覧表で示されている。また、いじめや防災教育、平和学習などについてのコラムが、関係する教材の後に掲載されている。 ・県の調査研究資料には、いじめの問題への対応に関する内容として多数の教材が挙げられていたが、いじめを直接扱っている内容の教材は少ない。 ・教材文が長文のものが多く、一読に時間がかかる。 ・文字の大きさが教材によって変わる。6年生では、大きな字の教材の場合、字間が詰まった印象を受ける。 ・挿絵や写真が多く、思考の助けとなっている。ただし、いくつかの教材で個性的な挿絵を採用しており、挿絵から登場人物の心情が分かりにくいものがある。 ・カラーユニバーサルデザインに配慮している。別冊は、鉛筆で書きやすく、消しやすい紙質である。

発行者 略称	発行者 番号	教科書の 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
光文	208	道徳 108 208 308 408 508 608	しょうがく どうとく ゆたかな ころ 1ねん・2年 小学どうとく ゆたかな心 3年・4年 小学道徳 ゆたかな心 5年・6年	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさは A4 判で低学年には大きく扱いにくい。 ・平均ページ数は 197 ページ（5 番目に多い）、重さは 416 g（2 番目に重い）。 ・発達段階に応じたアサーションを学習するページを設けている。 ・名言やことわざなど発達段階に応じて紹介し、言語活動の定着を意識して学習に取り組めるよう配慮している。 ・教材の末尾にある学習の手引きの中で、問題解決的な学習を促す項目を設定しているが、具体的な話し合いの仕方や議論の仕方、テーマの設定についてはない。 ・記入できるページは少なく、各学年とも 1～2 ページ程度。巻末に「学びの足あと」があるが、1 時間に 1 行ほどの記述しかできないため、多面的・多角的な見方をしているか評価するための学習のふり返しなどは別のシートを準備する必要がある。 ・教材のページ下に発問となりそうな課題が具体的に書かれ過ぎていて多面的な見方を引き出すような発問がしにくくなる。 ・主題となるキーワードが明記してあり、本時で考えることを中心に捉えやすくなるように配慮している。 ・高学年では、文化遺産や自然遺産について取り上げ、地図やグラフを用いたりして社会科との関連を意識した教材もある。また、「ことばのたからもの」では、国語科との関連を意識していると思われる。 ・いじめ教材については、学年によってばらつきがあり、充実していると言いはない。 ・伝統や文化に関する教材については、特に高学年で幅広く取り上げられており、地図や写真などの資料で分かりやすく説明してあり、関心を高める工夫がされている。 ・学習したことを生かして体験活動へとつなげられるように「ひろげる」の項目を設け、生活の場へとつなげることを重視している。 ・情報モラルについては全学年で扱われ、児童にとって身近で具体的な内容を取り上げており、内容は、現代の児童の実態によく合っている。 ・一つの教材の長さが適切で、45 分間の授業で扱いやすい分量になっている。 ・写真、挿絵、地図などカラーで見やすい。 ・行間、字間については、高学年では 1 ページ 20 行。文字は他 7 社より小さく文字数が多い印象。 ・1 年生、2 年生では分かち書きがある。3 年生までは漢字に全て読み仮名がついている。めくりやすく、鉛筆で書いたあとが残りにくい紙質となっている。

発行者 略 称	発行者 番 号	教 科 書 の 記号・番号	教 科 書 名	調 査 結 果 の 概 要
学研	224	道徳 109 209 309 409 509 609	新・みんなのどうとく 1・2・3 新・みんなの道徳 4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさは A4 判で低学年には大きく扱いにくい。ページ下段に大きな余白が目立つ。 ・ページ数は平均 154 ページ、重さは 366 g。8 社中ページ数は 2 番目に少ないが、重さは標準的。 ・巻頭に My Profile のコーナーがあり、巻末には学びの足跡のコーナーがあることで、年間を通して自分自身の課題と向き合い成長を感じることができるよう構成されている。 ・つなげようのコーナーは、学んだ学習をもとに、体験活動につなげる工夫がされている。 ・深めようのコーナーでは、つかもう（価値にふれる）、探そう（問題解決）、ふみだそう（言語活動）といった流れで、学習ができるように道筋が示されている。 ・つなげよう、やってみよう、深めようでは、自分の考えを記述するため、評価につなげることができる。また、ここでは友達と話し意見を交換し合うことができるようになっていることで、多面的多角的な思考につなげる工夫がされている。 ・主題を捉えて学習ができるよう、教材ごとに「かんがえよう」の問いが設定されている。 ・各学年ともいじめそのものを取り扱った教材が少なく、充実しているとは言い難い。 ・情報モラルについては、各学年とも児童の生活の中にあるインターネットや SNS を扱った教材があり、身近に感じるとともに、児童にとっても自分ごととして考えやすい。 ・タイトルは特大文字。明るく大きい挿絵で、写真も大きく効果的な使い方がされている。数も多い。 ・挿絵のないページはやや文字が多い印象がある。 ・紙が薄くページがめくりにくい。

発行者 略 称	発行者 番 号	教科書 記号・番号	教科書名	調査結果の概要
廣あかつき	2 3 2	道徳 110 111 210 211 310 311 410 411 510 511 610 611	みんなでかんがえ、はな しあうしょうがくせい のどうとく1 じぶんをみつめ、かんが える どうとくノート1 みんなで考え、話し合う 小学生のどうとく 2・3 自分を見つめ、考える ど うとくノート2・3 みんなで考え、話し合う 小学生の道徳 4・5・6 自分を見つめ、考える 道 徳ノート4・5・6	<ul style="list-style-type: none"> ・大きさが横広の AB 判で扱いやすい。 ・別冊と合わせて、ページ数は6学年平均 189ページと多く、重さは410gと重い。 ・教材文の後に複数の問いが設定されており、児童が主体的に考えるための手がかりが示されている。 ・役割演技や問題解決のための話し合いが学習活動として設定されている、また、話し合いによって自分の考えがどう変わったかを記録する欄が別冊にあるなど、児童の考えが深まるような工夫がされている。 ・別冊に毎時間の振り返りを書く欄があり、本冊には、名言や本が紹介されており、言語活動の定着を図るための配慮が見られる。 ・問題解決的な学習を設定しやすい教材が配置され、その学習の手立てとして、複数の問いが設定されている。 ・教材文の後にある問いが、登場人物への自我関与がしやすく、心情を考えることを通して道徳的価値について多面的、多角的に考えることを促すものになっている。 ・毎時間の振り返りを書く欄が巻末にまとめられ、心に残った学習を書く欄があるなど、別冊は大きくりなまとまりを踏まえた評価を意識した作りになっている。 ・文章が平易で内容が捉えやすい。また、登場人物の心情が丁寧に書かれているため、主題について考えやすくなっている。 ・いじめを直接扱う教材は、高学年になるに従って少なくなる。代わりに、人権問題について考える教材が配置されている。 ・別冊に多様な体験活動がある。 ・情報モラルについての教材が配置されており、別冊の巻末に情報の取り扱い方についてのコラムが掲載されている。 ・挿絵や写真が少ない。 ・カラーユニバーサルデザインに配慮している。別冊は、鉛筆で書きやすく、消しやすい紙質になっている。

